

# 令和元年度新型インフルエンザ等対策訓練の実施結果

( 危機管理部 危機対策課 )

## 1 要旨

海外で発生した新型インフルエンザウイルスが国内に侵入し、県内でも感染者が確認された場合を想定し、静岡県新型インフルエンザ等対策行動計画の一部を訓練として実施することにより、要員の初動対応能力の向上を図った。

日 時	令和元年11月21日 (木) 10時00分～14時00分 (11:50～12:30は中断)
場 所	県庁別館5階危機管理センター、静岡市立静岡病院
参加者	各健康福祉センター、静岡市・浜松市保健所等 25人
想 定	<p>Y国において新型インフルエンザが流行し、国内においても感染例が認められ始めた中、県内のA病院(想定。訓練においては県庁別館)において新型インフルエンザ罹患の疑いのある患者が確認された。</p> <p>県は、東部健康福祉センターに配備されている感染症患者搬送車を活用し、A病院から第一種感染症指定医療機関である静岡市立静岡病院に患者を搬送することとした。</p>

## 2 訓練内容

新型インフルエンザが発生した際の感染の拡大防止へ向け、要員の初動対応能力を向上させるため、防護資機材に関する研修、専用車両による患者搬送、指定医療機関における患者受入及び感染者病棟への移送を行った。

## 3 成果

- ・県内で新型インフルエンザ等が発生した際、実際に現場で対応に当たる保健所職員が、基礎的事項から実務的な手順まで一堂に会して確認することができ、新型インフルエンザ対策に関する共通認識を持つことができた。
- ・初めて防護服の着脱を経験する職員が多かったが、防護服メーカーから講師を招いて演習を行ったことで、防護服の取り扱い、適切な着脱方法、廃棄時の注意点等、幅広く学ぶことができた。
- ・昨年度、新規に導入した感染症患者搬送車を使用し、第一種指定医療機関である静岡市立静岡病院へ実際に搬送する訓練を実施したことで、同様の事象が発生した際の対応を具体的にイメージすることができ、患者搬送に当たって注意すべき点を様々な立場(保健所担当者、運転者、添乗者、報道対応者等)から確認することができた。
- ・感染症患者搬送車の車内に事前に養生を施すことで、迅速に車内を清浄化でき、患者増大時には、より効率的に搬送車を運用できることがわかった。

## 4 課題

### (1) 訓練によって把握できた実際の対応上の課題

ア 同時に複数の患者への対応が求められた場合、どのような体制を作り、どのように感染の拡大を防止していくか、引き続き検討する必要がある。

イ 患者の搬送が、長距離・長時間に及ぶ可能性があることから、車内での患者の容態の変化や、添乗する職員の感染防止等にも留意する必要があるため、搬送前の適切な準備、搬送車両への必要資材の搭載等、今後も患者搬送に係る技術や設備の向上を図っていく必要がある。

### (2) 訓練の実施方法の課題

ア 会場を清浄エリアと汚染エリアに区分した訓練でなかったことから、エリア境界での防護服の取り扱いや着脱時の注意点について十分に確認することができなかった。今後、同様の演習を実施する際には、エリア境界を想定して、適切な知識・技術を習得できるものとしたい。

イ 患者役が比較的体格の大柄な職員であったことから、車椅子により搬送車のスロープを登る際、添乗員1名では補助に苦慮する場面があった。患者搬送をより適切に実施できるよう、複数名で対応する等当該手順の見直しが必要と考えられる。

## 5 今後の対応

- ・今回の訓練を通して把握した課題について、今後の当該訓練に関連項目を盛り込んで改善状況を確認することで、訓練の実効性を高めていく。
- ・今回は患者搬送に焦点を置いた訓練としたが、新型インフルエンザ等への対応は多岐に渡るため、今後も様々なフェーズや役割を想定した訓練を継続し、県全体の新型インフルエンザ等への対応能力の向上を図っていく。



防護服着脱演習



患者搬送訓練